

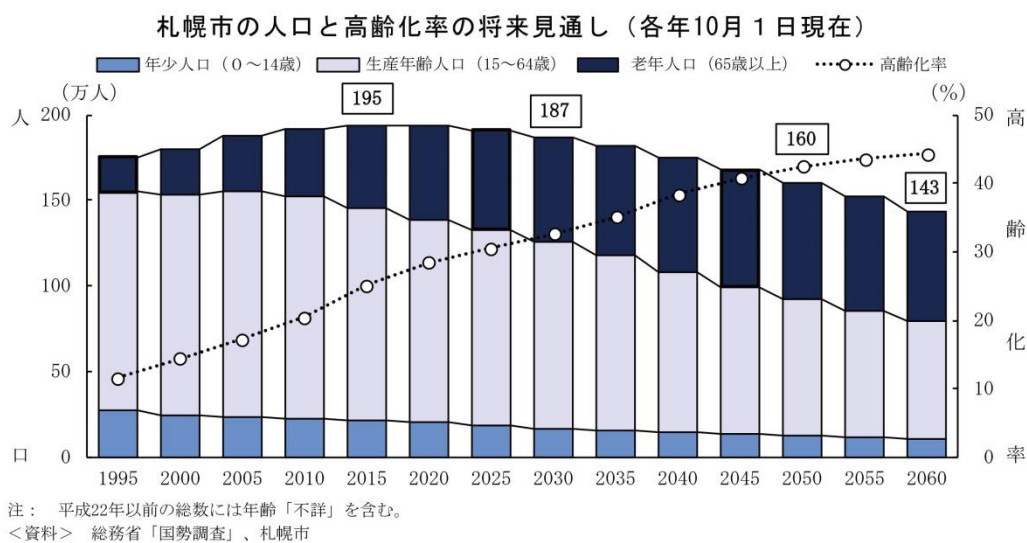
第2次札幌市環境基本計画策定に向けた議論の進め方について

1. 計画年度の考え方について

第2次計画での計画年度は第2回会議で提案したとおり、平成30(2018)年～平成42(2030)年とし、この期間における対策の方向性や、成果指標・定量目標を計画に記載する。

しかし、本計画で目指す札幌市の姿はその先を見据えたものとし、「将来像」を描いた上で、この期間にどのような対策を進めるべきかについて検討を行うこととする。

なお、会議で提案した平成62(2050)年の人口推計については、「さっぽろ未来創生プラン(人口ビジョン編)」で平成72(2060)年までの推計を行っていることから、「将来像」については2050年頃を想定して議論を行う。



2. 計画内容について

現行の第1次札幌市環境基本計画は、対策の内容及び定量目標について下位計画の内容にまで踏み込むものとなっていた。そのため、下位計画の改定によって整合性が取れなくなっていたことから、下位計画との切り分けを行うこととする。

そのため、基本計画においては、「札幌市が目指す将来像」「将来像を実現するための施策の方向性」「計画期間において実施すべき施策(下位計画まで踏み込まない程度に)」とする。

[例] 地球温暖化対策

(将来像) 平成62(2050)年までに温室効果ガス排出量を平成2(1990)年比で80%削減

(方向性) 徹底した省エネルギーの実現と再生可能エネルギーの大幅導入

→住宅、建築物のゼロエネルギー化、CO₂を排出しない移動方法の実現、など

(施策) ○高断熱・高气密な住宅・建築物の普及

○太陽光などの再生可能エネルギーの普及

○電気自動車、燃料電池自動車の普及 など

※これらに関する平成42(2030)年までの成果指標や目標を設定

3. 「まちづくり」の考え方について

札幌市における「まちづくり」については、「札幌市まちづくり戦略ビジョン」にて総合的な計画を立てている。

第2次環境基本計画における「まちづくり」については、「環境保全」を通じ、「まちづくり」の分野にどのような貢献ができ、そのためにどのようなことを実施していくか、について検討していくこととする。

[例]地域コミュニティの活性化

(貢献できること) 地域住民同士の交流の機会の創出

(実施していくこと) 町内会でのごみ拾いや緑化の機会の増加、商店街における環境イベントの実施 など

→実施に係る他の計画や部局を本計画に位置付け、実現性を担保する。

4. 部会における議論の進め方について

事務局からの提供資料は、各分野における「現状（これまでの取組や目標など）」「課題」「他都市（海外含む）の事例」「想定しうる方向性（事務局案）」とし、議論を行う。
議論の進め方としては、

- ①平成 62（2050）年頃におけるその分野の将来像を議論
- ②その将来像を実現するために、平成 42（2030）年までに何をすべきか
- ③第2次基本計画にはどこまで記載するか

を話し合う。

※各部会で出た意見は、骨子案として取りまとめ、本文の構成や記載内容については、審議会本体で話し合う。

※「現状」については、現行の環境基本計画や下位計画における位置づけを踏まえて議論を行う。

<環境基本計画の位置付けと主な個別計画との関係>

